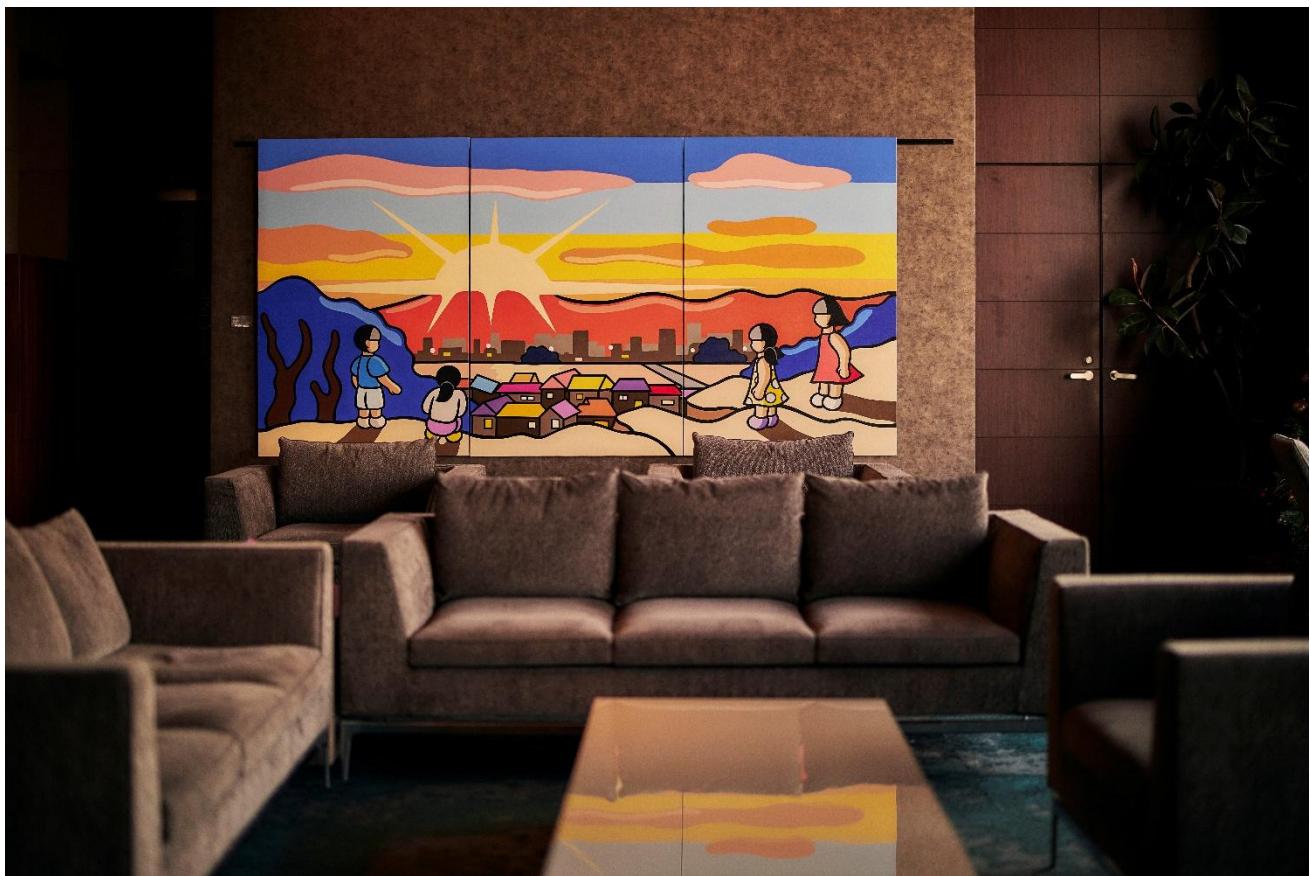


「ON THE WAY IN WINTER 冬の途中で」展 パークホテル東京で開催中

～冬の静けさとぬくもりを描く5人のアーティスト、2026年2月23日まで～

パークホテル東京（運営：株式会社芝パークホテル／東京都港区、代表取締役社長 柳瀬連太郎）は、アートをコンセプトに、四季折々の美意識を体感できる空間を提供しています。館内アートプロジェクト「ART colours」では、現在、冬展示『ON THE WAY IN WINTER 冬の途中で』展を開催中です。期間は2025年11月17日（月）から2026年2月23日（月）まで、ホテル25階アトリウムにて入場無料でご覧いただけます。



フロアの随所にアート作品が展示されている25階のアトリウム。どこか懐かしさを想起させるあやいろの作品。

パークホテル東京では、年間を通じて、春夏秋冬の季節ごとに展示を模様替えし、日本文化の「季節を尊び、もてなす」精神を現代的に再解釈しています。茶道における「夏はいかにも涼しきように、冬はいかにも暖かくなるように」という千利休の言葉に象徴されるように、日本の「もてなし」は季節とともにあります。本展もその精神を受け継ぎ、アートを通じて四季折々の美意識を体感できる空間を提供しています。

本展「ON THE WAY IN WINTER 冬の途中で」は、冬という季節の静けさとぬくもりをテーマに、5人のアーティスト（あやいろ、Hooly、NEUNOA、上林泰平、Hiroaki Sato）がそれぞれの視覚的言語で、冬の光、時間の静けさ、内側に宿るぬくもりを描き出しました。ホテルとは、時間の流れがいったん止まり、心がふたたび深く息をするための空間とさえ、訪れる人々に「旅の途中の静かな休息」を提供したいと考えています。「ART colours」展ではアートとおもてなしを融合させた空間で、単なる滞在ではなく、心を整え、感性を満たす特別な体験をご提供します。



エレベーターホールの前。心が和むひととき。



コミカルな作品も展示。Hiroaki Sato の作品。

展示期間中は不定期に作品の入れ替えを行うため、何度も訪れても新しい発見があります。あやいろは、冬の朝の光のように透き通る色彩で、眠りの余韻を帯びた世界にかすかな輝きを見出します。Hoolyは、白い息のように静かに佇む人物像を描き、夢と現実の狭間に漂う儚い感情を表現します。NEUNOAの重なり合う筆致は、冬の夜の思考のように深く静まり、内なるリズムを感じさせます。上林泰平は、ミニチュアの人影を通じて、冬の街灯の下で交錯する孤独とつながりの気配を描きます。そして Hiroaki Sato は、ユーモラスで少し不器用なキャラクターを通じて、鑑賞者に温かい笑顔を届け、ホテル空間に新しい「冬の時間」を紡ぎます。

■展示概要

- ・ 展示名：「ON THE WAY IN WINTER 冬の途中で」
- ・ 期間：2025年11月17日（月）～2026年2月23日（月）
- ・ 時間：11:00～20:00
- ・ 場所：パークホテル東京 25階 アトリウム
- ・ 入場：無料
- ・ 主催：パークホテル東京
- ・ キュレーション：Contemporary Tokyo
- ・ URL：<https://parkhoteltokyo.com/ja/art-at-park-hotel-tokyo/art-colours/>

■出展アーティスト紹介

・ あやいろ/Ayairo

「風景が呼び起こす記憶」をテーマに、どこか懐かしさを宿す日本の風景を、自身の記憶や感情と重ね合わせながら描いている。明瞭な黒い輪郭と鮮やかな色彩によって、過去の断片的でありながら具体的な記憶を画面に浮かび上がらせる。

- **Hooly**

京都を拠点に活動する現代アーティスト。女性の「美しさ」と「かわいさ」に共感と敬意を寄せ、女性的なシルエットを際立てる装いを意識的に描く。ミニマルでフラットな色面構成とグラフィカルな描線を特徴とする。

- **NEUNOA**

重なり合う筆致が、冬の夜の思考のように深く静まり、内なるリズムを感じさせる抽象的な作品を制作。「表層に囚われない本質的な価値の追求」をコンセプトに、著名人を題材にして大量の絵の具で抽象化し、再解釈した。

- **上林泰平/Taihei Kanbayashi**

2cm ほどのプラスチック人形をキャンバスにたくさん立たせることで、集合体の中で揺らぐ人間の行動心理を可視化、表現。様々な要素を限界までそぎ落とし、芸術の本質を求めるミニマリズムの構成により、人間社会と芸術における本質的な思考を巡らせる作品が多い。

- **Hiroaki Sato**

ユーモラスで少し不器用なキャラクターを通じて、鑑賞者に温かい笑顔を届ける作品を制作。ホテル空間に置かれることで、光や空気と調和し、新しい「冬の時間」を紡ぐ。



ミニマリズムの手法を取り入れ、社会や人間心理を表現する
Taihei Kanbayashi。



著名人を大量の絵の具を使って描く NEUNOA。

* * *

パークホテル東京について

パークホテル東京は、1948年創業の芝パークホテルの姉妹ホテルです。汐留メディアタワー25階から34階にあり、東京タワーや富士山を見渡せる絶景が魅力です。客室は268室で、うち50室はアーティストが壁に絵を描いた「アーティストルーム」です。この「アーティストルーム」は、“日本の美意識が体感できる時空間”をコンセプトにしたプロジェクトで、ジャパン・ツーリズム・アワードで領域優秀賞を受賞しました。ロビーや回廊には400点以上のアートが展示されています。呈茶や絵画体験などのアートイベントも開催しています。

<https://parkhoteltokyo.com>



パークホテル東京 外観

本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先

芝パークホテル / パークホテル東京 マーケティング部ブランド戦略推進課

担当:喜多尾、松尾

pr@shibaparkhotel.com

TEL : 03-3433-4141 (代) FAX : 03-5470-7515